

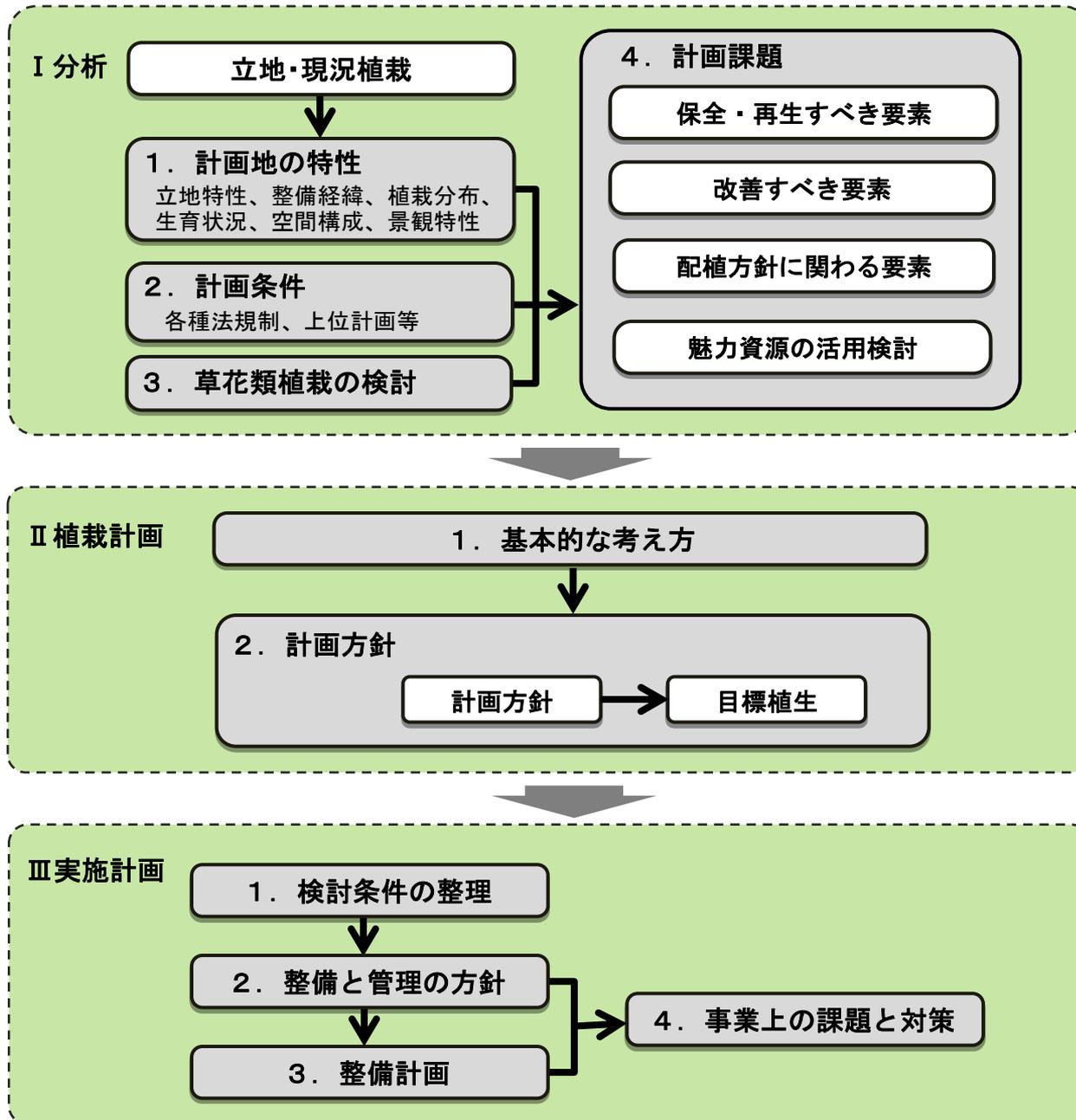
庭園植栽ゾーン  
国際フォーラム庭園の植栽計画（案）

# 目次

---

計画の検討フロー	I-1
I. 分析	I-2
I-1 計画地の特性	I-3
I-2 上位計画等の整理	I-28
I-3 草花類植栽の検討	I-33
I-4 計画課題の整理	I-36
II. 植栽計画	II-1
II-1 基本的な考え方	II-2
II-2 計画方針	II-3
III. 実施計画	III-1
III-1 検討条件の整理	III-2
III-2 整備と管理の方針	III-3
III-3 整備計画	III-13
III-4 事業上の課題と対策	III-16

# 計画の検討フロー



# I. 分 析

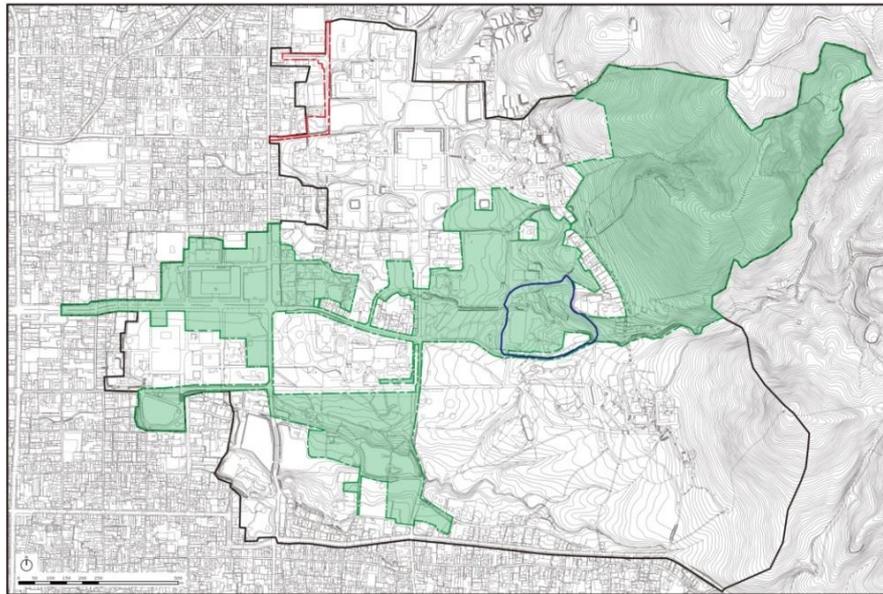
# I - 1 計画地の特性

## (1) 計画地の立地・位置づけ

### 特性 - 1 計画地の立地

計画地は、公園全体の計画区域の中央付近にあり、若草山麓と平坦部の接点に位置している。計画地の範囲は主に都市公園区域であるが、一部は春日大社境内地となっている。

### 1) 計画地の位置・諸元



○ 計画区域    全色 県事業エリア    全色 計画地 (国際フォーラム庭園)

図: 計画地の位置

○面積 約4.7ha

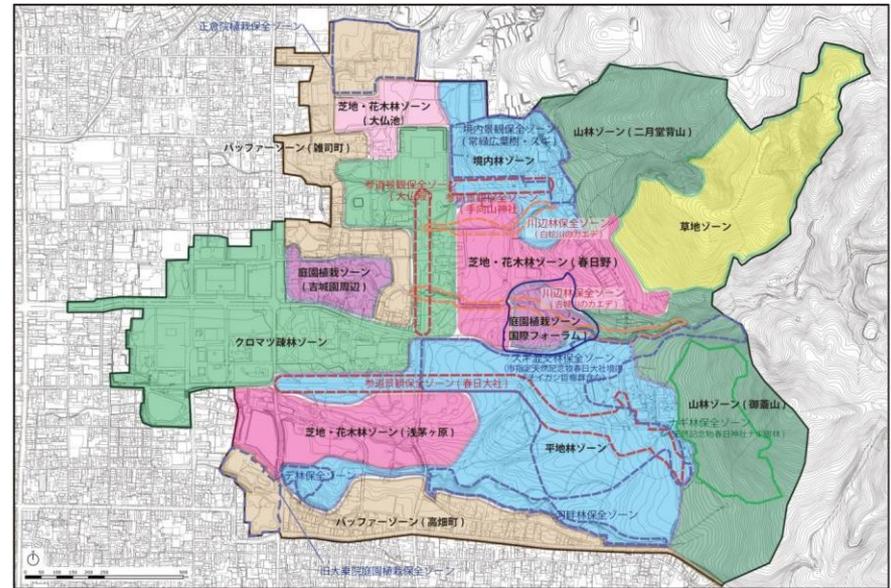
○土地内訳

県事業エリア(都市公園:奈良公園) 約4.0ha

春日大社境内地 約0.7ha

※計画地内の植栽管理は、全て奈良公園事務所が実施している。

### 2) 計画地とゾーニングの関係



○ 計画区域    全色 ゾーン  
全色 サブゾーン

図: 計画地とゾーニング

## I -1 計画地の特性

## 3) 計画地の位置づけ

## 特性-2 計画地の位置づけ

- ・計画地は、土地利用的に見ると奈良春日野国際フォーラム・薨及びその隣接地と捉えることができる。奈良春日野国際フォーラム・薨（以下「薨」と称する）は、同時通訳施設や能楽堂を備えた国際コンベンション施設である。
- ・「薨」は奈良公園をはじめとする世界文化遺産に囲まれた中に位置しており、周辺環境に調和した大規模な庭園と一体となったコンベンション施設は他に類を見ないものと評されている。庭園は、コンベンション施設の魅力の一つとして、多様な利用がなされている。



庭園パーティ(貸切)



同左



同左



ナイトパーティ(貸切)



庭園コンサート



同左



東大寺聖武天皇祭



なら瑠璃絵(夕方・玄関前)



なら瑠璃絵



若草山焼き



若草山焼き・大花火



なら燈花会

## I-1 計画地の特性

## (2) 歴史的な経緯

## 特性-3 歴史的な経緯

- ・計画地は、公会堂（明治36年1903整備）の敷地及び庭園を受け継ぐものであり、現在の植栽は、「薨」（旧称新公会堂）の建替整備（昭和62年1987）に伴い整備された庭園植栽である。
- ・「薨」の庭園整備では、吉城川が大きく改修され芝地が広がられている。ひょうたん型の池や前庭周辺などが保全継承されているほか、良好な樹木の多くが保存又は移植により保全・活用されている。

## 1) 計画地及び周辺地の来歴

年次	内容
明治13年(1880)	・太政官布達により奈良公園開設（本計画地は含まない。）
明治21年(1888)	・第六十八国立銀行・第三十四国立銀行の両奈良支店の集会所として奈良倶楽部(明治36年奈良県公会堂の前身)を旧四恩院跡(本計画地南端に位置していた)に建設
明治22年(1889)	・春日野・浅茅ヶ原等の名勝地、東大寺・氷室神社等の寺社境内地、若草山・春日山等の山野を含む新奈良公園地（奈良県立奈良公園）を告示
明治30年(1897)	・公園平坦地、芳山に楓、桜、柳、松、百日紅、杉などを植樹
明治36年(1903)	・奈良県公会堂（1号館）を整備
明治43年(1910)	・春日野運動場を整備
大正11年(1922)	・奈良公園を名勝に指定
昭和07年(1932)	・東大寺旧境内を史跡に指定
昭和62年(1987)	・奈良県新公会堂を整備
昭和63年(1988)	・なら・シルクロード博の開催
平成02年(1990)	・春日野園地（春日野運動場跡）および浮雲園地・三社池（春日野水泳場および児童遊戯場跡）、奈良公園館（春日野庭球場跡）として再整備
平成27年(2015)	・別館（旧公園管理事務所他）及び連絡通路を整備完了 ・「奈良春日野国際フォーラム薨」に改称



図：江戸中期絵図上の計画地位置(想定)

春日神社及び興福寺之図 部分 享保以降

## 【新公会堂庭園の整備目的と条件】

- ・鹿の入り込まない庭園として一般に開放し、四季にわたる花木と芝生のある庭として利用する。
- ・現況の山地部分と一体的な利用を図る。
- ・若草山と御蓋山の谷部を流れる吉城川の法線を変更し、庭園の芝生の園地を広げる。
- ・現況庭園の南側については、出来るだけ保全する。

## 【設計意図】

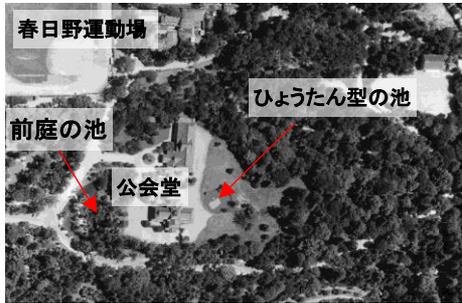
- ・芝生の園地と山地の地勢がぶつかる位置に吉城川の法線を設定した。
- ・新たな景観演出として、新公会堂レストランから見える位置に朱塗りの太鼓橋と滝組を設けた。
- ・山地部分の活用については、樹林越しに庭園が眺められる位置に、月見の宴や茶会等にも利用できる休憩所を設けた。
- ・現況樹木の移植利用を主体に、現況樹林との調和を図った。

施工期間：1985年9月～1988年3月

植栽樹種：クロマツ、ヤマモミジ、サルスベリ、サツキ、ヒラドツツジ、カンツバキなど

I - 1 計画地の特性

2) 航空写真で見る変化



1961年6月19日  
(第二室戸台風被害直前)



1993年5月16日  
(なら・シルクロード博開催後の再整備後)



1979年9月11日  
(奈良公園開設百年記念植樹祭直前)



2008年5月15日

3) 葦建設時点での地形保全状況

葦(旧称:新公会堂)建設時の地形保全状況を確認するため、旧公会堂の地形図(実測)と現在の地形図(航測)を重ね合わせ、保全されていると考えられる範囲を下图に明示した。



図: 旧公会堂実測図と現在地形図との重ね合わせ

上図と現在の植栽状況を照らし合わせてみると、造成され地形保全できなかった範囲にはウメやサルスベリなどの新たな花木や低木、地被類が植栽されている。

地形保全されたところは新たに植栽されているものは、尾根の一部を除いてわずかである。

## I - 1 計画地の特性

### (3) 植栽の現況と評価

#### 1) 植栽分布の傾向

##### 特性-4 植栽分布の概況

- ・計画地の植栽は、シカを排除した庭園部とシカが存在する外周部に区分される。庭園部は、シカが排除されているため高木の他に中低木や地被類が植栽されている。
- ・庭園部と外周部の境界部分には、ツバキ類(サザンカ含む)の列植やイヌマキの生け垣によって区分されている。
- ・植栽群は、樹種構成、規格、密度などから、「春日大社境内地と一体性が高いところ」と「春日野園地等と一体性が高いところ」に区分される。

- ・「春日大社境内地と一体性が高いところ」は、スギや常緑紅葉樹(在来樹種)の樹林が主体で、樹林の相当部分は鬱閉している。

##### 特徴的な樹木

- 針葉樹 スギ
- 常緑広葉樹 クスノキ、スダジイ、シラカシ、イチイガシ、シロダモ、カゴノキ

- ・「春日野園地等と一体性が高いところ」は、芝地の中にマツ類や花木類、低木・地被類が樹種毎にまとまって植栽されている。

##### 特徴的な樹木

- 針葉樹 クロマツ(仕立物)、アカマツ
- 花木 サクラ類、ウメ、サルスベリ
- 低木 アジサイ、ツツジ類、トサミズキ、ムラサキシキブ

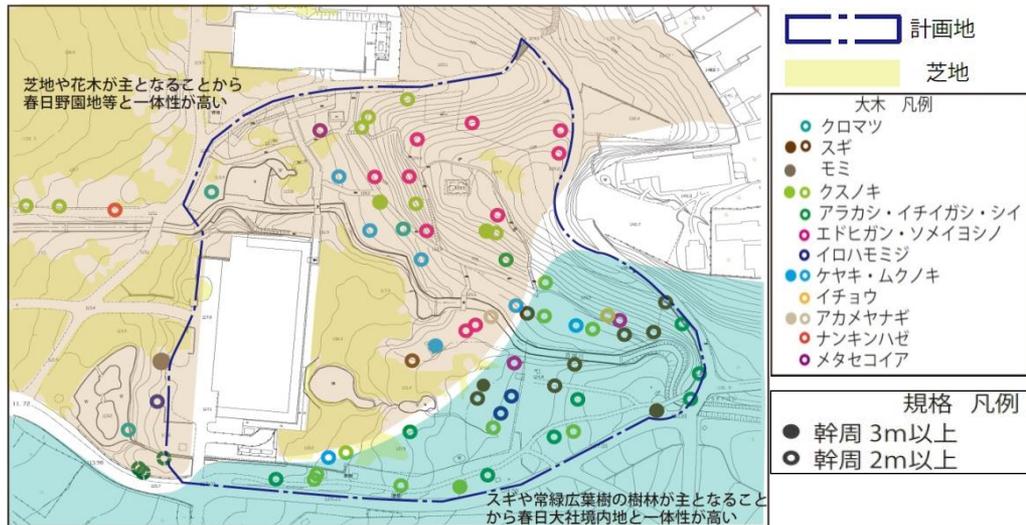


図: 植栽分布の傾向

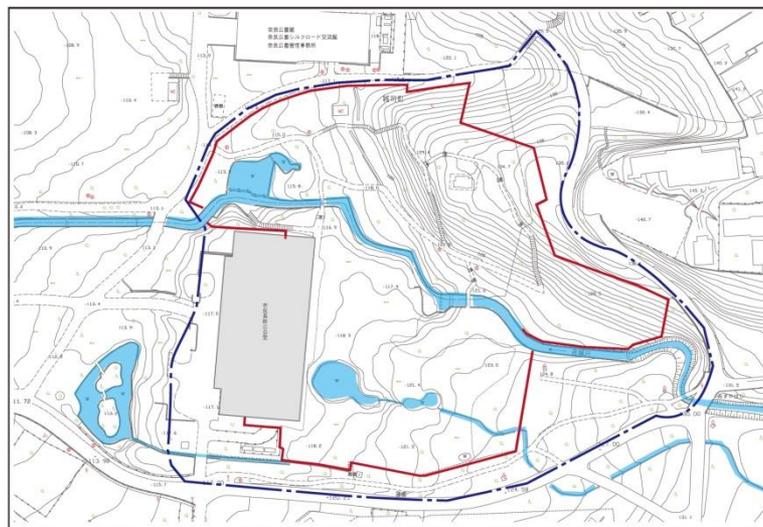


図: 庭園の境界柵

図: 庭園の境界柵

I - 1 計画地の特性

2) 主要樹種の分布と生育状況

● 針葉樹の分布(マツ類、スギ)

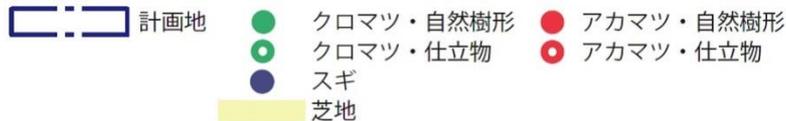
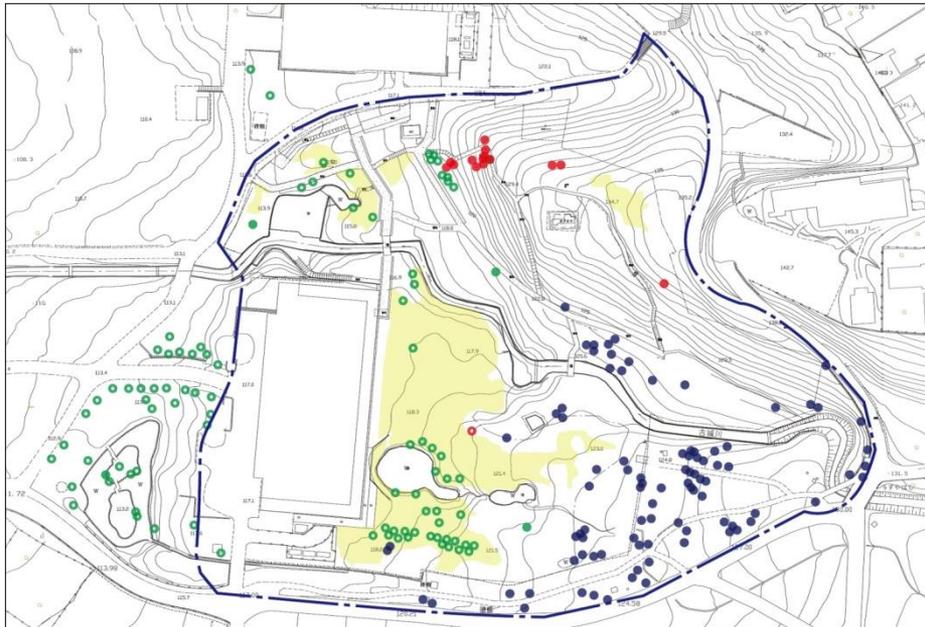


図: 芝地とマツ類・スギの分布 樹木調査(H27年度)

①マツ類

分布と履歴	<ul style="list-style-type: none"> <li>マツ類は尾根部の数本のアカマツを除き、ほとんどがクロマツである。</li> <li>クロマツは建物周辺の芝地部分に多く分布し、大半が仕立物である。アカマツは、主に尾根部に分布し、自然樹形である。</li> <li>規格の大きいものは少なく、大半は「葦」整備時(1988)に植栽されたと考えられる。</li> </ul>
生育・管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>マツ枯れ等により大幅に減少した。「葦」以前は背景樹林には自然樹形のマツが、芝地部分には仕立物のマツが見られた。</li> <li>現在は仕立物のマツが大半で、自然樹形のマツは僅かである。</li> <li>尾根部のアカマツは過密であるためか生育は良くない。</li> <li>マツ類はマツクイムシ対策として薬剤注入を行っているが、毎年枯れが生じている。</li> </ul>
周辺部のマツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>若草山山麓の芝地や樹林地は、マツ枯れのために現在はマツ類は全く見られない。</li> <li>「葦」のアプローチには、仕立物のマツ類が多く見られる。</li> </ul>
「公園全体の植栽方針」との整合	<ul style="list-style-type: none"> <li>クロマツは「クロマツを基調とするエリア」に分布しており整合しているが、尾根部にはアカマツがあることから、その点は検討する必要がある。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>仕立物は「葦」の庭園の重要な構成要素であるが、配植や樹形を改善する必要がある。改善にあたっては「葦」のアプローチ部のマツとあわせて検討する必要がある。</li> <li>尾根部山裾のクロマツ仕立物や庭園南端のクロマツ仕立物の列植など、景観との調和を再考すべきものが見られる。</li> <li>尾根部にサクラが多く植栽されていることから、サクラとの調和に配慮したマツ類の復元は検討に値する。</li> </ul>



図: 針葉樹の配植(案)



ひょうたん型の池付近のクロマツの仕立物



尾根部のアカマツ(自然樹形)



不自然なクロマツ仕立物の列植



自然樹形と仕立物がパツティング

I - 1 計画地の特性

②スギ

分布と履歴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スギは、吉城川上流部から春日大社に近いところに分布し、大径木が多く見られる。</li> <li>・大径木は明治・大正期、その他成木は「葦」整備時(1988)に植栽されたと考えられる。一部に若木が見られるが、実生であると考えられる。</li> </ul>
生育・管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スギは全体に生育は良好で、大径木も多い。</li> <li>・スギは、定期的な管理作業は実施していない。</li> </ul>
周辺部のスギ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春日大社境内地には、スギの大径木が多く見られる。</li> <li>・若草山山麓部の芝地や樹林地は、スギはほとんど見られず、モミが多く見られる。</li> </ul>
「公園全体の植栽方針」との整合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スギは、「スギを基調とするエリア」に分布しており整合している。</li> </ul> <p style="text-align: center;">※配植図はマツの図を参照</p>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スギは概ね大きな問題はないが、樹木規格が相当に大きくなっているため、一部過密や他の樹木とバッティングが生じている。また、庭園景観がアンバランスとなっている所も見られることから、選択的に伐採することを検討する必要がある。</li> </ul>



生長が進み突出したスギ



ヒガンザクラを被圧するスギ  
花を見せるため枝打ちされている

○その他の針葉樹

- ・計画地内のマツ類とスギ以外の針葉樹としては、以下のものがみられる。
- イヌマキ : 計画地南側の生垣に使用されているほか、尾根の北東端の斜面地に数本見られる。
- ナギ : 計画地南側の外周に数本見られる。
- メタセコイア : 計画地北寄りに大木が1本見られる。

●花木類の分布(サクラ類、ウメサルスベリ、ハクモクレン、ツバキ・サザンカ、カエデ類)

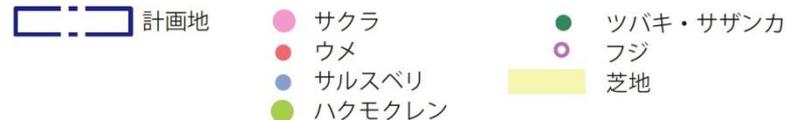
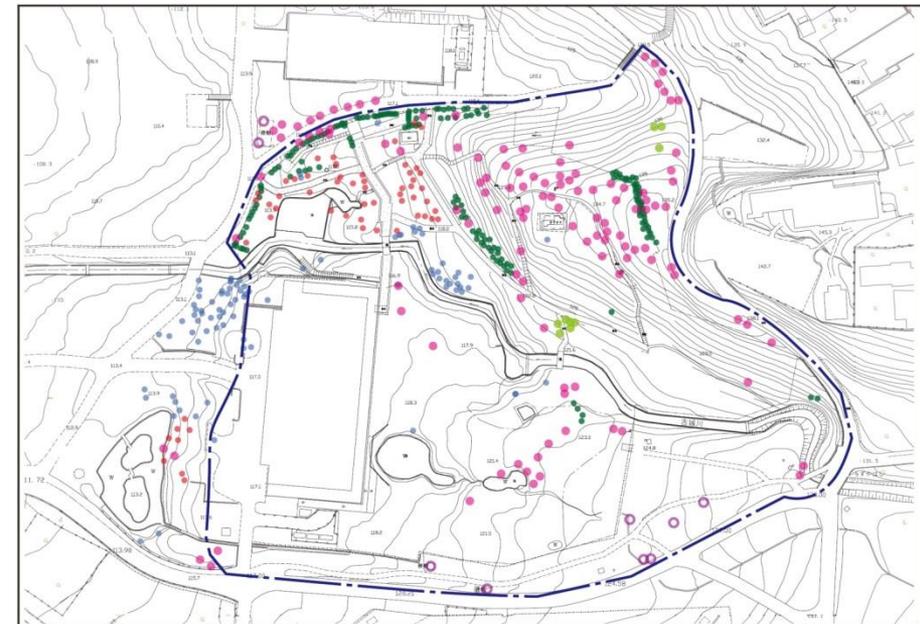
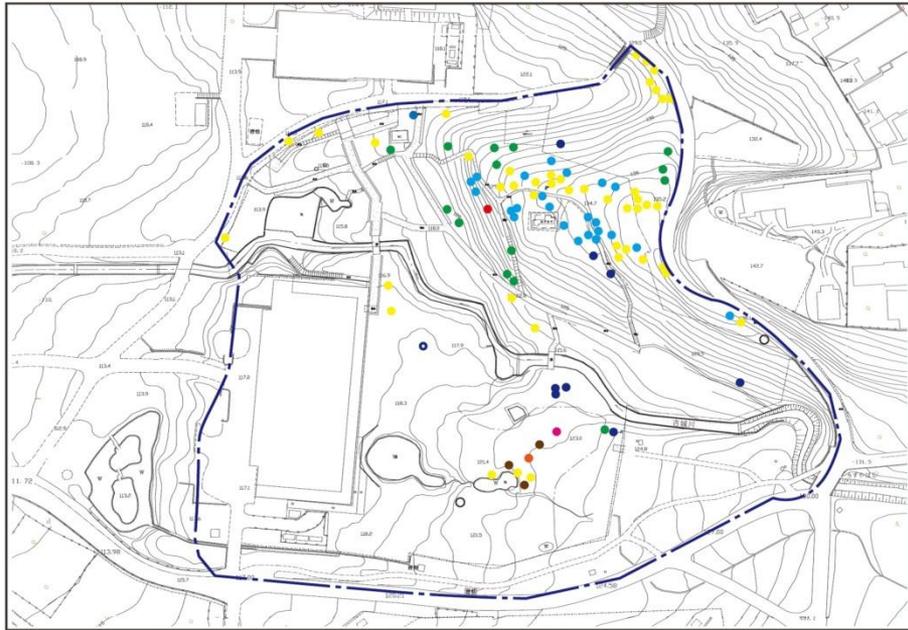


図:花木類の分布

I -1 計画地の特性

③サクラ類



- エドヒガン
- コヒガン
- ソメイヨシノ
- ヤマザクラ
- ヤエベニシダレ
- ナラノココノエザクラ
- ナラノヤエザクラ
- 御衣黄
- 紅豊
- 不明

図：サクラ類の樹種・品種の分布  
樹木調査(H27年度)

<p>分布と履歴</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サクラ類は 尾根部と山麓樹林の林縁付近に分布しており、いずれの場所にも大径木が見られる。</li> <li>・大径木は「葦」整備以前に植栽されたもので、エドヒガン、ヤマザクラ、ソメイヨシノで構成されている。特にエドヒガンは、樹高も高く樹勢が良いものが多い。</li> <li>・大径木以外のサクラは「葦」整備時(1988)に植栽されたもので、尾根部はナラノココノエザクラとナラノヤエザクラが植栽され、芝地の南側にはシダレザクラや御衣黄などの園芸品種を展示的に植栽している。</li> </ul>
--------------	---

<p>生育・管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソメイヨシノやヤマザクラの大径木の一部は、樹勢が衰え樹形が乱れている。</li> <li>・エドヒガンは、いずれも樹高も高く樹勢の良いものが多いが、クスノキやスギなどの大木に被圧されているものがある。</li> <li>・ナラノココノエザクラとナラノヤエザクラの生育は全体に良好であるが、常緑樹林内にあるものは樹勢が衰えているものが多い。ナラノココノエザクラやナラノヤエザクラの一部は、樹木生長が進んでいるため過密化しているところがある。</li> <li>・芝地南側の園芸品種は芝地に点在しており、生育は良好である。</li> <li>・サクラ類は、定期的な管理作業は実施していない。</li> </ul>
<p>周辺部のサクラ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浮雲園地や春日野園地から若草山山麓に向かう動線付近は、ナラノココノエザクラとナラノヤエザクラが多く植栽されている。</li> <li>・春日大社境内地付近は、サクラは殆ど見られない。</li> </ul>
<p>「公園全体の植栽方針」との整合</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サクラ類は、主に「サクラ類を主体とするエリア」に分布しており整合している。</li> <li>・樹種・品種は「サクラ類の配植(案)」に示された配植と概ね整合している。</li> </ul>
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常緑樹林内などに植栽不適箇所に配植されているサクラは、伐採を検討する必要がある。</li> <li>・常緑樹木の大木に被圧されているサクラの大径木は、サクラの保全のため常緑樹木の剪定や伐採などを検討する必要がある。</li> <li>・エドヒガンやヤマザクラ等は、後継木の植栽を検討する必要がある。</li> <li>・ナラノココノエザクラやナラノヤエザクラの一部で過密化しているものは、隣接樹木もあわせて択伐や移植等を検討する必要がある。</li> </ul>

## I -1 計画地の特性

### ③サクラ類



早春のサクラ等の景観

(左からコヒガン、ハクモクレン、エドヒガン。左上クスノキの背面からエドヒガン大木が覗く)



クスに被圧されるエドヒガン



エドヒガン(太鼓橋南)



シダレザクラ(太鼓橋南)



ナラノココノエザクラ(尾根部)



ナラノヤエザクラ(尾根部)



ヤマザクラ(尾根部)



ソメイヨシノ(尾根部)

## I -1 計画地の特性

## ④ウメ

分布と履歴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウメは、庭園北よりの芝地付近に梅林として分布している。</li> <li>・ウメは、全て「葦」整備時(1988)に植栽されたものと考えられる。</li> </ul>
生育・管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウメは、定期的な剪定をうけており樹木の大きさは大きくない。</li> <li>・幹に傷みがあるものがあり、樹勢はやや衰えているものが多い。</li> </ul>
周辺部のウメ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺にウメは植栽されていない。</li> </ul>
「公園全体の植栽方針」と整合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画地内にウメの配植に関わる記載はない。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理の工夫により樹勢を高め、花付きをよくする必要がある。</li> </ul>



ウメ(連絡通路西側)



ウメ(連絡通路東側)

## ⑤サルスベリ

分布と履歴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サルスベリは、芝地を流れる吉城川の北側に分布している。</li> <li>・サルスベリは、全て「葦」整備時(1988)に植栽されたものと考えられる。</li> </ul>
生育・管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サルスベリは、定期的な剪定をうけており樹木の大きさは大きくない。</li> <li>・サルスベリの生育に特に問題はない。</li> </ul>
周辺部のサルスベリ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サルスベリは、浮雲園地から「葦」に向かう動線に沿って多数植栽されている。</li> </ul>
「公園全体の植栽方針」との整合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画地内にサルスベリの配植に関わる記載はない。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来的な樹形や大きさを検討し、状況に応じて剪定方法や植栽密度を改善する必要がある。</li> </ul>



サルスベリ(後方はウメ)



サルスベリ

I -1 計画地の特性

⑥ハクモクレン

分布と履歴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハクモクレンは、太鼓橋北側に5本、庭園外周部の北東角部に5本植栽されている。</li> <li>・ハクモクレンは、全て「薨」整備時(1988)に植栽されたものと考えられる。</li> </ul>
生育・管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一部隣接樹木の被圧があるものや、今後被圧の恐れがあるものがある。</li> <li>・ハクモクレンは、定期的な管理作業は実施していない。</li> </ul>
周辺部のモクレン類	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺部にハクモクレンやコブシは植栽されていない。</li> </ul>
「公園全体の植栽方針」との整合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画地内にハクモクレンの配植に関わる記載はない。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハクモクレン及び隣接樹木について、今後の樹木生長を踏まえた植栽管理を検討する必要がある。</li> </ul>



ハクモクレン(太鼓橋北側)



ハクモクレン(庭園外周部)

⑦ツバキ・サザンカ

分布と履歴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ツバキとサザンカは、庭園の外周柵付近や園路沿い等に列植されているものが多い。</li> <li>・ツバキとサザンカは、「薨」整備時(1988)に植栽されたものと考えられる。</li> <li>・吉城川最上流部付近に自然植生のヤブツバキが点在している。</li> </ul>
生育・管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ツバキとサザンカ共に生育良好であるが、一部のツバキで生長が進み過密になっているものがある。</li> <li>・ツバキとサザンカは、定期的な管理作業は実施していない。</li> </ul>
周辺部のツバキ・サザンカ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヤブツバキは、春日大社境内地など自然植生に混じる。</li> <li>・サザンカはほとんど見られない。</li> </ul>
「公園全体の植栽方針」との整合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画地内にツバキ・サザンカの配植に関わる記載はない。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過密なものや景観上支障のあるものは、適宜択抜や剪定(樹高調整)する必要がある。</li> </ul>



サザンカ(庭園外周柵付近)



ヤブツバキ(尾根山裾)

I -1 計画地の特性

⑧カエデ類



計画地
 ● イロハモミジ・ヤマモミジ  
 芝地

図:カエデ類の分布 樹木調査(H27年度)

分布と履歴	<ul style="list-style-type: none"> <li>カエデ類は、吉城川沿いに次いで計画地南東の常緑広葉樹林の林縁部分に多く見られる。ほとんどはイロハモミジであるが、一部ヤマモミジが混じる。</li> <li>カエデ類は大径木が多い。一部に若木が見られるが実生である。</li> <li>吉城川沿いのカエデ類は、「薨」整備時(1988)に園内移植されたものである。</li> </ul>
生育・管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>カエデ類の生育は良好で、樹形、樹勢共に良好なものが多い。</li> <li>剪定など定期的な管理作業はされていない。</li> </ul>
周辺部のカエデ類	<ul style="list-style-type: none"> <li>吉城川沿いの上下流は、共にカエデ類が連続している。</li> </ul>
「公園全体の植栽方針」との整合	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画地内ほぼ全域が「カエデ類を主体とするエリア」になっており、整合している。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>カエデ類は庭園の主要構成樹種として重要であるため、適宜択伐する必要がある。</li> </ul>



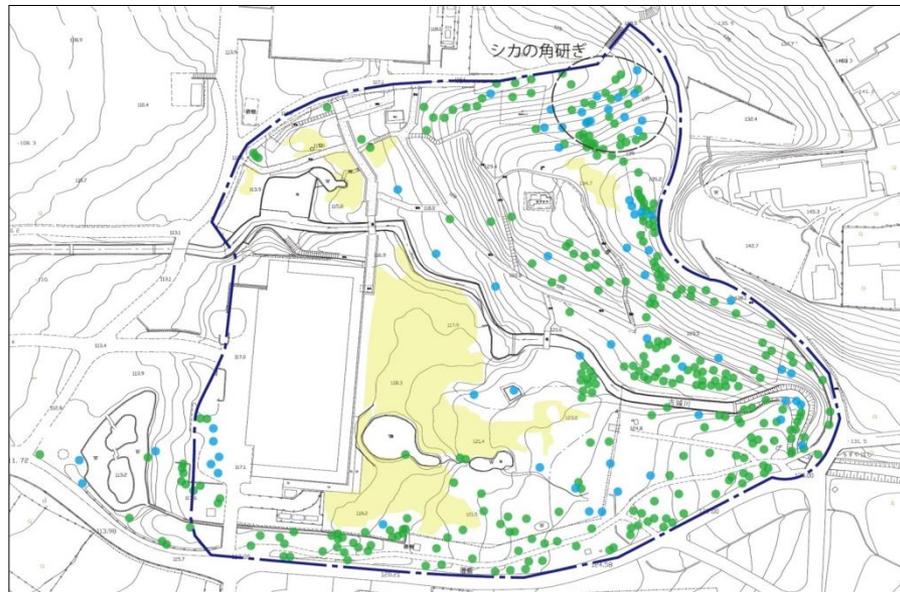
移植されたイロハモミジ  
(吉城川下流部)



イロハモミジ  
(ひょうたん池付近)

I - 1 計画地の特性

⑨常緑・落葉広葉樹



図：常緑・落葉広葉樹の分布 樹木調査(H27年度)



クスノキ・シラカシ・ヤマモモ (太鼓橋南側)



イチイガシ (尾根山裾)



クスノキ群 (尾根部)



シラカシ・角研ぎ被害



マルバヤナギ (吉城川沿い)

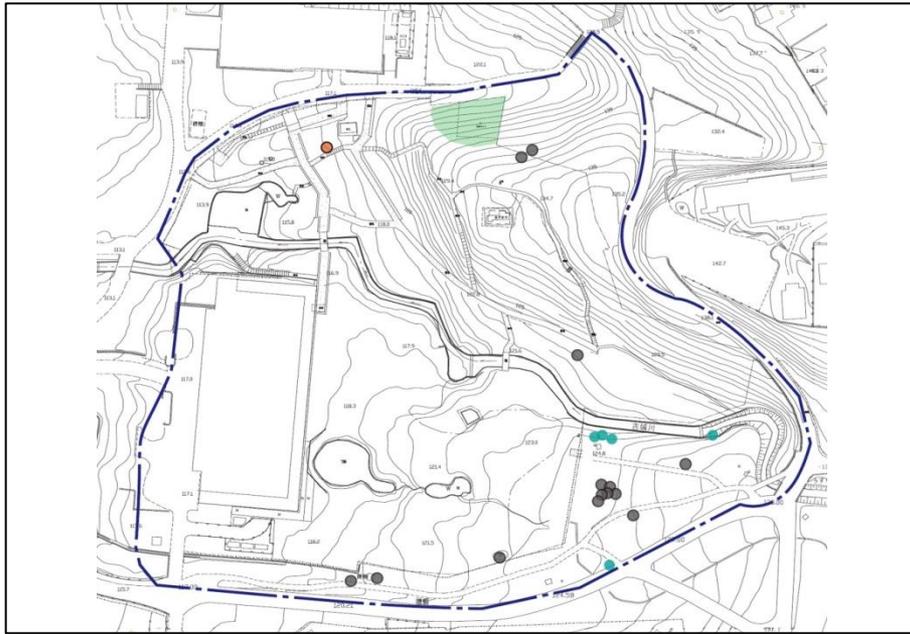


ケヤキ (吉城川沿い)

分布と履歴	<ul style="list-style-type: none"> <li>常緑広葉樹は、クスノキ、スダジイ、シラカシ、イチイガシ、ヤマモモ、シロダモ、カゴノキ等で、尾根部から春日大社境内地に近いところに多い。クスノキ、スダジイ、シラカシ、ヤマモモは植栽であると思われるが、イチイガシ、シロダモ、カゴノキは自然植生であると思われる。クスノキ、シラカシ、イチイガシは大径木があり、「葦」整備以前に植栽されたものと考えられる。</li> <li>落葉広葉樹は、ケヤキ、ムクノキ、エノキ、マルバヤナギ、イヌシデ等で、計画地のあちこちに点在している。ケヤキ、ムクノキは植栽であると思われるが、それ以外は自然植生であると思われる。</li> <li>その他に、個体数の少ない樹種として、リンボク、エゴノキ、カマツカ、ツリバナなどが見られる。</li> </ul>
生育・管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>いずれも生育は良く自然樹形であるが、一部のヤマモモやマルバヤナギは、日照不足のため生育不良を起こしているものがある。</li> <li>計画地北東の外周部大径木に、シカの角研ぎ被害がみられる。</li> <li>計画地内のカシ類にキクイムシ被害が発生している。</li> <li>定期的な管理作業は実施していない。</li> </ul>
周辺部分布	<ul style="list-style-type: none"> <li>常緑・落葉広葉樹共に、周辺の自然林や水系付近に見られる。</li> </ul>
「公園全体の植栽方針」との整合	<ul style="list-style-type: none"> <li>常緑・落葉広葉樹は、概ね右図に示された配植と整合している。</li> </ul>  <p>図：常緑・落葉広葉樹の配植(案) 出典：公園全体の植栽方針 (H26年度)</p>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>植栽木も見られるが自然植生のものも多く見られ、自然性は高い。</li> <li>大径木は、幹周り、樹高共に非常に大きなものがあり、樹形も見事なものが多い。</li> <li>樹木生長のため、過密な状態になっているところが多い。</li> </ul>

I -1 計画地の特性

⑩外来高木(ナンキンハゼ・メタセコイア)



計画地   
 ● ナンキンハゼ   
 ● ナキ\* (参考)  
 ● メタセコイア   
 ■ モウソウチク (参考)

図：ナンキンハゼとメタセコイアの分布 樹木調査(H27年度)

分布と履歴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ナンキンハゼは、計画地の南北樹林内に各1~2本分布している。立地から鳥散布による実生であると考えられる。</li> <li>・メタセコイアは、計画地北寄り芝地内に1本あるが履歴は不明。</li> </ul>
生育・管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共に生育は良く、自然樹形である。</li> <li>・共に定期的な管理作業は実施していない。</li> </ul>
周辺部の分布	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ナンキンハゼは、浮雲園地や春日野園地に多数あるほか、あちこちに点在する。</li> <li>・メタセコイアは周辺にはない。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ナンキンハゼは樹林地内にあり、速やかに伐採する必要がある。</li> <li>・メタセコイアは、奈良公園に適さない外来種であることから、伐採する必要がある。</li> </ul>



ナンキンハゼ  
(南東樹林地内)



メタセコイア  
(屋外トイレ付近)

I -1 計画地の特性

⑪低木・地被類



   計画地   
    低木 (群生)   
    境界柵  
   低木 (点在)   
 図: 低木・地被類の分布 樹木調査(H27年度)  
   地被類



ムラサキシキブ(尾根部・点在)   
 アセビ(尾根部・点在)   
 アセビ古木(尾根斜面・点在)



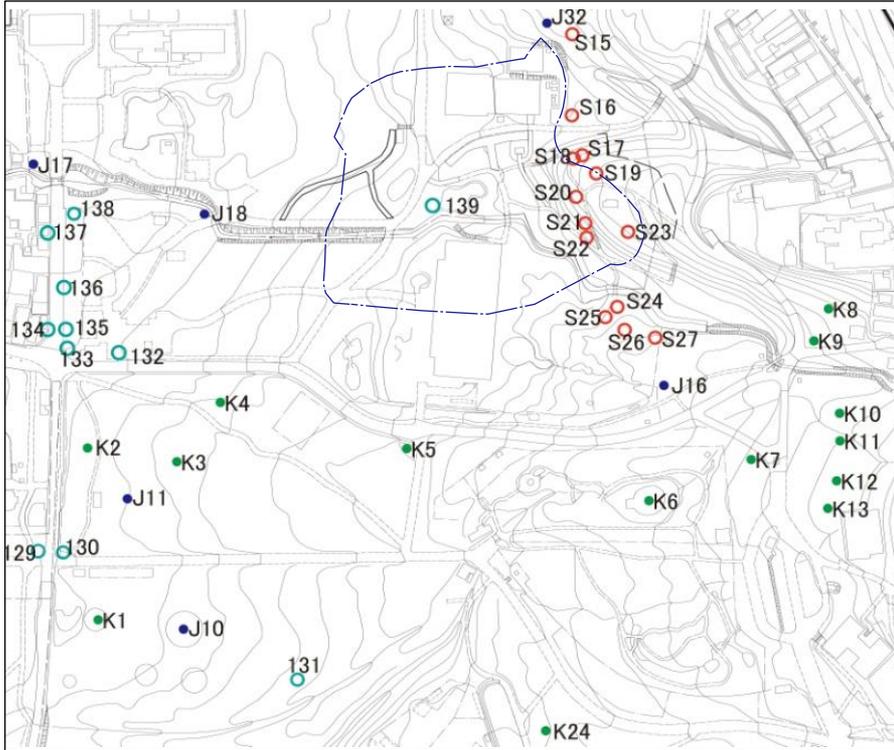
アジサイ、ヒラドツツジ(尾根部・群植)   
 ツワブキ、ヤブラン、アジサイ(連絡通路付近)   
 ドウダンツツジ(尾根部・点在)

分布と履歴	<ul style="list-style-type: none"> <li>低木・地被類はアセビ以外は庭園内に分布し外部には見られない。</li> <li>植栽による低木は、アセビとムラサキシキブが点在し、カンツバキ、クチナシ、ツツジ類(ヒラドツツジ、キリシマツツジ、サツキツツジ、ドウダンツツジ)、アジサイ、ウメモドキ、トサミズキ、ヤマブキなどが群生している。自然植生と思われる低木としては、マンリョウ、センリョウ、ナンテン、ヒサカキなどが見られる。</li> <li>植栽による地被類は、シャガ、ツワブキ、オカメザサ、タマリユウ、ヤブラン、カタクリ(育成中)などが見られる</li> </ul>
生育・管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>概ね生育には問題ないが、吉城川上流部の樹林内のツツジ類は日照不足で生育不良を起こしている。また、ヤブツバキ列植下に配植されているシャガも日照不足の状況にある。</li> <li>点在する低木は、定期的な管理作業は実施していない。群生する低木及びオカメザサについては、毎年刈込み剪定を実施している。</li> </ul>
周辺部分布	<ul style="list-style-type: none"> <li>低木・地被類は、アセビやシダ類を除き周辺地には見られない。</li> </ul>
「公園全体の植栽方針」との整合	<ul style="list-style-type: none"> <li>尾根部の自然な植栽景観に不釣り合いな低木植栽(以下に列記)が見られることから、配植や剪定方法の見直しが必要である。                  帯状又は方形に群植されたトサミズキやアジサイ、                  個体毎に刈り込まれたドウダンツツジ、ウメモドキの群植</li> <li>樹形が大きく乱れたアセビの古木が多いことから、樹形・樹勢の改善を図る必要がある。</li> <li>樹林地付近はマンリョウ、センリョウ、ナンテン、ヒサカキなど実生苗が非常に多く、雑多な印象を与えているため、管理方法の見直しが必要である。</li> <li>尾根部のヒラドツツジは高木の生長により日照不足をおこし花付きが悪いことから、配植の見直し又は隣接木の剪定を検討する必要がある。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>低木・地被類はアセビ以外は庭園内に分布し外部には見られない。</li> <li>植栽による低木は、アセビとムラサキシキブが点在し、カンツバキ、クチナシ、ツツジ類(ヒラドツツジ、キリシマツツジ、サツキツツジ、ドウダンツツジ)、アジサイ、ウメモドキ、トサミズキ、ヤマブキなどが群生している。自然植生と思われる低木としては、マンリョウ、センリョウ、ナンテン、ヒサカキなどが見られる。</li> <li>植栽による地被類は、シャガ、ツワブキ、オカメザサ、タマリユウ、ヤブラン、カタクリ(育成中)などが見られる</li> </ul>

I - 1 計画地の特性

⑫重要樹木

平成25年度重要樹木調査の結果から、計画地及び周辺地に位置する重要樹木を抽出した。



○ 1 ~ 183 マツ類 大木 ● JA ~ JF いわれのある樹木 ● K1 ~ K24 イチイガシ巨樹群 (市指定天然記念物含む)  
 ○ S1 ~ S20 サクラ類 大木 ● J1 ~ J32 巨樹・巨木 ※1 マツ類の番号は台帳ではM001 ~ M151 ※2 一部重複表記

図:重要樹木位置図

NO	樹種名	形状寸法		選定区分			位置情報	
		樹高	幹周	巨樹リスト	巨樹群	大径木	ゾーン	土地所有
J016	フジ	14.6	1.23	○			平地林ゾーン	社寺地(春日大社)
K005	イチイガシ	25.7	3.68		○		平地林ゾーン	社寺地(春日大社)
S017	ヤマザクラ	13.7	1.91			○	庭園植栽ゾーン(新公会堂)	奈良公園
S018	ヤマザクラ	9.4	1.90			○	庭園植栽ゾーン(新公会堂)	奈良公園
S019	ナラノココエザクラ	13.1	1.60			○	庭園植栽ゾーン(新公会堂)	奈良公園
S020	ヤマザクラ	12.0	2.47			○	庭園植栽ゾーン(新公会堂)	奈良公園
S021	ヤマザクラ	10.8	1.29			○	庭園植栽ゾーン(新公会堂)	奈良公園
S022	ヤマザクラ	11.8	2.78			○	庭園植栽ゾーン(新公会堂)	奈良公園
S023	エドヒガンザクラ	20.2	2.24			○	庭園植栽ゾーン(新公会堂)	奈良公園
S024	エドヒガンザクラ	18.4	2.14			○	庭園植栽ゾーン(新公会堂)	奈良公園
S025	エドヒガンザクラ	17.5	1.92			○	庭園植栽ゾーン(新公会堂)	奈良公園
S026	ヤエベニシダレ	5.8	0.94			○	庭園植栽ゾーン(新公会堂)	奈良公園
S027	エドヒガンザクラ	17.8	2.84			○	庭園植栽ゾーン(新公会堂)	奈良公園

表:重要樹木リスト